

## 山陽小野田市食育推進会議議事録

会議の種類	令和6年度第1回山陽小野田市食育推進会議		
日時	令和6年5月14日(火) 14:30~16:00		
場所	高千帆地域交流センター分館2階		
出席者	山陽小野田市保育協会	今井 梢	(委員)
	山陽小野田市私立幼稚園連盟	勝木 京子	(委員)
	山陽小野田市教育研究会	佐伯 剛	(委員)
	山陽小野田市立山口東京理科大学	立花 研	(委員)
	山陽小野田市地球温暖化対策地域協議会	内藤 美恵子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢 幸子	(副会長)
	山口県漁業協同組合	久中 幸子	(委員)
	小野田南高泊干拓農業協同組合	松村 孝子	(委員)
	市民代表	村上 美喜子	(委員)
	山口県立厚狭高等学校	森 祐子	(委員)
	宇部フロンティア大学短期大学部	山下 晋平	(会長)
	山陽小野田料飲組合	山本 直仁	(委員)
	(出席者数 12人)		
欠席者	山陽小野田市母子保健推進協議会	高木 理代	(委員)
	市民代表	富田 輝美	(委員)
	山口県販売協力店連携協議会	西丸 朋子	(委員)
	(欠席者数 3人)		
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	納屋 早与子	
事務局	福祉部部長 吉岡 忠司	福祉部次長兼高齢福祉課長	尾山 貴子
	健康増進課長 山本 玄	健康増進課技監	大海 弘美
	健康増進係長(食育担当) 加藤 諭香江	健康増進係主任技師	白井 誓栄
食育推進庁内連絡会	市民部次長兼環境課長 山本 満康	農林水産課長	臼井 謙治
	学校教育課長 山本 敦士	学校給食センター所長	吉村 匡史

	<p>1 開会あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和6年度山陽小野田市食育推進計画に関する年間スケジュール</p> <p>(資料1について事務局から説明)</p> <p>資料1について、ご質問、ご意見はあるか。</p> <p>1点事務局に確認。パブリックコメントは市民からご意見をいただくことだと思うが、どのように実施するのか。</p> <p>パブリックコメントは市民意見公募といい、約1か月間、ホームページなどで案を公開し、市民から意見をいただくもの。パブリックコメント実施後、その意見を踏まえて見直しを行っていく。</p> <p>資料1についてその他ご質問、ご意見はあるか。</p> <p>(特になし)</p>
会 長	
事 務 局	
会 長	
会 長	<p>(2) 令和6年度山陽小野田市食育推進事業計画について</p> <p>(資料2について事務局から説明)</p> <p>資料2についてご質問、ご意見はあるか。</p> <p>当会議の久中委員が第29回全国青年・女性漁業交流大会 水産庁長官賞を受賞された。このような取組が受賞されたことをご報告したい。実施した取組のテーマ等を教えていただきたい。</p> <p>埴生漁港で実施している取組や地域活性化するための取組を発表した。子ども達が魚を喜んで食べてくれたことや小さな漁港でもみんなが協力して取り組んでいることなどを伝えることができた。</p> <p>このような素晴らしい活動をしている団体を知ってもらい、魚食について、料理教室等に活用できたらと思う。</p> <p>資料2の3ページについて、食育だよりの発行とあるが、ゴミの分別も追加してもらいたい。</p> <p>食育だよりのボリュームが大きいので、すぐに追加できるかは分からないが、今後検討していきたい。</p> <p>食育だよりに掲載することで家庭でもごみの分別の波及効果になると思う。</p>
委 員	
会 長	
委 員	
連絡会委員	
会 長	
会 長	<p>(3) 第2次山陽小野田市食育推進計画最終評価のための調査結果について</p> <p>(資料3について事務局から説明)</p> <p>資料3についてご質問、ご意見はあるか。</p> <p>項目12「農林漁業体験を経験した市民の割合」について、令和3年度のコロナ禍より悪化している。見学ツアーなどの状況はどうか。</p> <p>グリーンハウスでは小学3年生の社会見学の受け入れをしているが、減っている感覚はない。また、市内の小学生だけでなく宇部等の市外の学校の受け入れも行っている。</p> <p>平成29年度、令和3年度、令和5年度の調査の調査数や対象者は同</p>
委 員	

事務局	<p>じなのか。</p> <p>子どもについては、小学5年生と中学2年生に限定して調査を実施しているが、対象者は異なる。大人については、関係団体を通じて実施しているため対象者は異なるが、おおよその世代は同じ。</p>
委員	<p>項目2「誰かと食事をする機会のない高齢者の割合」がここまで値が変わるかが気になった。</p>
会長	<p>高齢者の共食についてご意見はあるか。</p>
副会長	<p>コロナ禍は共食の機会はほとんどなかった。近隣や地域が連携をすることで改善するので、私たちの団体も取り組んでいきたい。</p>
会長	<p>少しずつ改善してきたが、10%の人は機会がないのが現状。どのように共食の機会を提供していくか今後検討する必要がある。</p>
委員	<p>項目11「ゆっくり噛んで食べるよういつも心がけている市民の割合」について、子どもの割合が増えている。学校現場での食事の様子はどうか。</p>
会長	<p>小学5年生は家庭科の授業がある。食事のマナーや噛んで食べる意識はあると思う。コロナ禍は前向いて無言で食べていたため、子ども達は無意識に、しっかり噛んで食べる等、良い面が残っているではないか。</p> <p>今後も良い影響が残ると良い。</p>
事務局	<p>項目1「食育に関心を持っている市民の割合」について、平成29年度より減少している。</p> <p>食育推進会議なので項目1は重要である。食育の関心を高めるための取組として、資料2の8ページに、「食育ツールの作成」とあるが、例えばどのようなものか。</p> <p>例えば、食育ランチョンマットがある。これは配膳、食事のバランス、野菜摂取不足解消などの目的があり、保健事業等を通じて啓発している。また、幼稚園・保育園、小中学校との連携によって、保護者にも啓発している。</p>
会長	<p>(4) 第3次山陽小野田市食育推進計画の基礎調査について (資料5、6、7について事務局から説明)</p> <p>この市民意識調査は計画策定にあたり、基礎的な調査となる。もっとこういう設問が良いのではないか等の意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>資料6の設問1に食育への関心とあるが、食育に関する説明が別紙であるのか。</p>
事務局	<p>現在は、この設問のみで、情報提供の予定はない。</p>
委員	<p>市民によって食育の概念が違うのではないか。市民全員が知っていれば問題がないが、説明があればいいと感じた。</p>
事務局	<p>調査の目的の1つとして、市民への食育に関する情報提供の場とも考えている。意見を踏まえて検討していきたい。</p>
会長	<p>食育の意味などを問う設問があるが、市民の負担が増えない形で検討してほしい。</p>
委員	<p>資料6の設問2-2について、食事会に飲み会を含めるのか。また、</p>

事務局	<p>選択肢として、参加したいと思わないけど参加する人もいるのではないか。</p> <p>まず、飲み会についてだが、国や県と同様の形でと考えている。より、簡潔にということで県の設問を参考に検討していきたい。</p>
委員事務局	<p>今回の調査は大学生も対象か。</p> <p>前は関係団体通じて実施したため御協力頂いた。この度は無作為抽出となる。その抽出の中に大学生が含まれる場合もある。</p>
委員	<p>資料6の設問2-1について、大学生は一人暮らしが多いので一緒に食べる機会は少ない。数値を押し下げる要因を外す工夫が必要。同様に設問16について、山陽小野田市の郷土料理、伝統料理とする場合、大学生は様々な地域から来ているため山陽小野田市の実態に影響する場合もある。その辺りを考慮できる工夫があるといい。</p>
事務局	<p>大学生に限らず、一人暮らしの人は多くいるため、家族構成を把握することで、一人暮らしでない方の実態を把握することも可能と考えている。</p>
会長	<p>また、設問16について、大学生に限らず、市外や県外の出身者も増えているため、限定せずに答えてもらう予定。</p> <p>新たに高校生が対象となった。回答しやすさ等のご意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>資料6の設問5と9、資料7の設問3と6は似たような設問だが、答えることが難しいように感じる。資料3の速報にもあるが、1食でも野菜料理を抜いていると数値が下がってしまう。もう少し回答しやすい形が取れるといい。</p>
事務局	<p>まず、資料6の設問5についてだが、国の評価指標でもあり、国と比較するためそのままとしたい。市で野菜摂取量の把握が難しいため、野菜に特化した設問を入れたいという思いがある。大人の調査について、野菜の摂取状況がわかる設問があればご意見をいただきたい。</p>
委員長	<p>今すぐに設問案が思いつかないが、案があれば連絡したい。</p> <p>毎食となると値がガクッと下がるのは、野菜を朝食に食べていない場合が多い。であれば、「朝食を食べていますか」の問いの後、「朝食に野菜を食べていますか」と問うことも1つの方法。</p>
委員	<p>資料6について、食文化の伝承（設問16）の後に、郷土料理（設問17）の設問がある。設問17の後に郷土料理の説明が記載してある為、設問の順番を入れ替えると分かりやすいのではないか。</p>
委員長	<p>資料7の設問6について、回答しやすいように工夫が必要と感じた。</p> <p>毎回食べますかの設問だと“はい”“いいえ”で回答するイメージ。毎回食べますかの設問にすると回答しやすいのではないか。</p>
委員	<p>所々、生活習慣病の予防と記載があるがそれを踏まえての設問として回答すればいいのか。例えば、資料7の設問9について、生活習慣病の予防のためだけでなくダイエットのために食べる人もいるのではないかと感じた。また、アンケート調査などで、回答の想定時間を記載している場合がある。想定時間を短めに記載すると市民も回答しやすいので</p>

事務局	はないかと思う。 資料6の設問6-1については国の調査に合わせたい。野菜摂取や減塩が生活習慣病予防につながる情報の提供をすることも可能なので検討していきたい。また、回答の想定時間については、ぜひ採用する方向で進めたい。
委員	資料7の設問6についてだが、野菜料理が3食絶対食べないといけないのか、350g食べればいいのか。高校生は朝早いため、朝から野菜摂取は難しい。摂取量を把握したいのであれば、一日に何皿食べますか等の聞き方でもいいのではないか。
会長	小学生は何皿という問いに答えることは可能か？ 難しいように感じる。
委員長	当たり前になっているが感謝の気持ちの意識が大切。そのような意識を皆が持つことが大切。
会長	感謝の気持ちを持つことは大切。そのためにどう支援するかどう事業展開するのかを検討するために、大人に対しては資料6の設問16、子どもに対しては資料7の設問8、9で現状を把握することができる。現状を把握することで、対策などを皆で考えていくことができればと思う。
委員	資料6の設問15について、これは市独自の設問だが、「食品ロス」を減らす行動として例示の記載があるが、その他にご意見があればお願いしたい。
委員	食品ロスについてSDGsでだいぶ浸透してきた。作りすぎない、残さないことが大切。その他、バイキング等でも取りすぎないことも大切。腹8分目にすることで生活習慣病の予防にもつながる。また、生ごみを肥料にして循環させることも家庭でできる。学校だけでなく、家庭などでも食品ロスに関する教育ができると良い。
事務局	必須と任意の設問について教えてほしい。
事務局	性別以外は必須と考えている。
事務局	せっかくの機会なので、調査の最後に、食育に関する意見聴取もあると良いのではないか。
事務局	全ての御意見を反映させることは難しいが、皆様の御意見をもとに再度検討し、見直しをしていきたい。
会長	資料1のタイムスケジュールにもあるが、この調査は6月1日から開始予定。タイトなスケジュールである為、対応できない部分もあると思うが、そこは御了承いただきたい。
会長	(5) その他 その他、御意見はあるか。 (特になし)
オブザーバー	活発な意見をきき、大変勉強になった。本日2種類の資料を配布している。1つ目は国の第4次食育推進基本計画の概要とその裏面には健康日本21の概要の資料である。2つ目は健康やまぐち21計画(第3次)

の概要である。健康やまぐち21計画(第3次)の概要の第5章に栄養・食生活とあるが、県では、健康づくり計画の中に食育推進計画を盛り込んで、併せて進めていく。経緯として、最終評価をした際、“朝食を欠食している県民(成人)の割合”“BMI25以上の割合”が悪化しており、健康づくりに関連する食育に重点を置くためにこのような形になった。本日の会議での気付きだが、1点目は「主食主菜副菜を1日2回以上」について、国の調査は全世代と若い世代を比較するためのものとして調査されているため、子どもに対して調査しているかは確認が必要。2点目は「共食」について、国は行政として環境整備をしていきたいという考えがあつての調査である。市の意図を踏まえて調査をするといいいのではないか。

3 その他  
(特になし)

閉会